

脩身論

後篇

T1A1  
22  
(W49)

脩身論後編卷一

阿部泰藏 譯

第一章

人間相互ノ職務ヲ論ス

此職務ヲ解シ明カスニ數説アリ

天ノ各人各國ニ與ヘラル賜ヲ見ルニ其樂ヲ得

ルノ具ヲ與フルノ一様ナラス或ハカノ人ニ勝

レレアリ或ハ容貌ノ美ナルアリ或ハ風致ノ人

ニ越セタルアリ或ハ思想ノ強キアリ或ハ富ノ

巨イナルアリ其他故擧スルニ違アラス故ニ此  
一事ニ於テハ人ニ大ナル差異アリ  
天是等ノ賜ヲ與フルト一様ナラサレハ何人ト  
雖凡他人ノ樂ヲ妨ケサレハ天ハ人ニ其賜ヲ與  
ヒテ隨意ニ己レノ樂ヲ得ヘキ權ヲ與フル事一  
様ナリ故ニ他人ヲ害セサレハ隨意ニ天ノ賜ヲ  
與ヒテ己レノ樂ヲ求ムルノ權人皆一様ニシテ  
毫厘ノ差異アルトナレ  
此事ハ一例ヲ設ケテ容易ニ之ヲ説明スルトヲ  
得ヘシ茲ニ一人ノ親アリ慈ニシテ且賢ナリ其

諸子ノ性質各異ナルヲ察レテ其習慣ト品性ト  
ニ從ヒ家産ヲ分ナテ一人ニ家ヲ與ヘ一人ニ土  
地ヲ與ヘ一人ニ金ヲ與ヘ一人ニ教育ノ與フ益  
レ其志ハ諸子ヲレテ各其受ル所ノ物ヨリ十分  
ノ樂ヲ得ヒレメント欲スルニ在ルト明カニレ  
テ其親ノ與フル所斯ク一様ナラスト雖凡互ニ  
兄弟ノ産ヲ奪ヒ其樂ノ具ヲ犯スノ權ニ於テハ  
敢テ之ヲ與フルトナク殊ニ父一人ノ子ニ他  
子ヨリ多クノ物ヲ與フルトモ之カ為メニ此子  
其兄弟ニ逼リ強ヒテ其産ヲ奪ヒ不平均ヲシテ

更ニ甚タレカラレハヘキノ理アルトナレ  
人々相交ハルニ左ノ辨別ヲ知ルヘシ是人間相  
互ノ職務ノ定則ナリ蓋シ人ハ皆天ノ己ニ與ヘ  
其樂ノ具ヲ自ラ隨意ニ用フルノ權アリトス  
故ニ又他人ヲレテ其天ヨリ受ケル樂ノ具ヲ隨  
意ニ用フルヲ得セシムヘシ人常ニ他人ヲ妙ケ  
己ノ五官四肢精神家産評判ヲ自ラ隨意  
ニ用フヘキノ權アルヲ主張ス故ニ又他人ノ此  
權ヲ用フルハ其妙ヲ為サスレテ其之ヲ用フ  
ニ任スヘシ若レ己ノ樂ヲ得シカ爲メ天ノ他

人ニ與ヘタル權ヲ犯ストキハ是レ人間相互ノ  
職務ノ定則ヲ破ルナリ  
經典ニ曰ク隣人ヲ愛スルト己ヲ愛スルカ如ク  
セヨト是レ此職務ヲ守ルヘキトヲ命スルナリ  
孰ヲカ隣人ト云フ疎遠ノ人外國ノ人敵國ノ  
者ノ別ナク人類ハ總テ皆我隣人ナリ  
何ヲカ隣人ヲ愛スル己ヲ愛スルカ如シト云フ  
其義ヲ知ラント欲セハ先己ノ自ラ其身ヲ愛ス  
ル如何ナルヲ問フヘシ蓋シ人皆天ノ己ニ與  
ヘタル其樂ノ具ヲ隨意ニ用フルヲ好マサル者

ナク若シ人ノ為メニ妨ヲ受クカキハ其害ヲ被  
 ムルモ甚ク其心ニ覺ユルヲ甚クシテ人ノ其  
 身ヲ愛スルハ方皆斯ノ如クナラサルナニ故ニ  
 其隣人ヲ愛フルモ亦斯ノ如ク為スヘクシテ隣  
 人ヲシテ其天賜ヲ隨意ニ用ヒシムルヲ願フ  
 亦己ノ之ヲ隨意ニ用フルヲ願フカ如クレ隣人  
 ノ權ヲ犯サルハ見ル片ハ亦己ノ權ヲ犯サル  
 ハカ如ク自ラ其苦ヲ心ニ覺ニ其意能ク此ノ如  
 クナル片ハ他人ノ權ヲ犯スヲ欲セサル  
 己ノ權ヲ犯スヲ欲セサルカ如ク他人ノ權ヲ愛スル

己ノ權ヲ愛スルカ如クナルヘシ是レ即チ隣  
 人ヲ愛スル己ヲ愛スルカ如クナルヘトノ謂  
 ナリ

又經典ニ曰ク己ノ欲スル所之ヲ人ニ施セ是レ  
 天ノ定則ニシテ先哲ノ遺訓ナリト其義上ノ教  
 ト同シク唯其文ノ異ナルノミ故ニ之ヲ解釋ス  
 ハ片ハ即チ亦左ノ義ニシテ人若シ他人ノ權ヲ  
 重ニスヘキノ大ナルヲ知ラント欲ヒハ先ツ他  
 人ヲシテ己ノ權ヲ重ンセシムルヲ願フ  
 如何ナルヲ問ヘシ然ル片ハ容易ニ其義ヲ知り得ヘ

クレテ他人ノ行ニ管セズ常ニ己ヲレテ先ツ此  
 ノ如キ所行ヲナスヘク命スルモノナリ故ニ若  
 シ他人ノ己ニ對レテ相互ノ職務ノ破リレ片ハ  
 彼ノ補繕ヲ為スラ要セスレテ之ニ對レ相互ノ  
 職務ヲ行フヘシ此教ニ從フ片ハ報復ノ念忽チ  
 熄ミテ只他人ノ害ヲ行フニ任レ恒ニ正道ヲ行  
 フテ之ニ示シ毫モ他人ヲミテ辨解ノ辞ナカラ  
 シハハキヲ明カナリ若シ能ク此ノ如クナル片  
 ハ暴惡ノ所行クレテ全ク地球上ニ其跡ヲ絶タ  
 シハルニ至ル可シ

上ニ論スル所ヲ見レハ此教ハ普ク人一適合ス  
 ルヲ明カニシテ人々何様ノ景況ニ於テモ常ニ  
 之ヲ離ルヘカラス故ニ此教ハ強弱貧富少長ヲ  
 論ベス總テ人ニ適合レテ若レ己天ヨリ恵ヲ受  
 クルヲ厚ケレハ其分ニ安レテ他人ヲ恵ムヲ務  
 ムヘキノ理愈大ナリ其天恵ノ厚キヲ以テ之ヲ  
 過クルノ少ナキ者ニ對レ其天ヨリ得タル此少  
 ノ所有ヲ奪フノ理ナク且此教ハ兒童ト雖モ亦  
 成人ニ異ナラスレテ若シ童子其カノ強キヲ恃  
 ム其伴ノ玩具ヲ奪ヒ或ハ己ノ年長ニシテ其智

夫ルニ任レ其伴ヲ騙スキハ此教ニ背クテ成人  
 ノ家ヲ奪ヒ馬ヲ盗ムト毫モ異ナルトナレ  
 此教ハ獨リ各人相交ハルノ際ニ用フヘキノミ  
 ニ非ラス萬國ノ交際ニ於テモ亦之ニ依從スヘ  
 レ故ニ此國ノ彼國ニ對シテ其權ヲ愛重スヘキ  
 亦自ラ己ノ國權ヲ愛重スルカ如クニレテ己  
 他ニ施スヨリ敢テ其報ノ多キヲ求ムルニ勿  
 且此國ノ彼國ニ對シテ或ハ殘虐ノ行ヲ為シ  
 或ハ虛誕ノ辭ヲ吐キ或ハ欺騙ノ術ヲ施ス之ヲ  
 各人ノ間ニ行フニ比スルニ其非タルニ更ニ大

ナリトスルモノハ是其人ヲ害レ人ノ心術ヲ傷  
 ノヲ甚タ大ナルニ因レリ故ニ若レ此ノ如キ非  
 ラ行フキハ其國ノ主宰人民共ニ天ノ責ヲ受ノ  
 べレ  
 人ハ皆天ノ造レル物ニシテ一樣ニ天ノ保護ヲ  
 受クル者ナリ故ニ相互ノ職務ヲ破ルキハ營人  
 ニ對シテ非ヲ行フノミニ非ラス亦天ニ對シテ罪  
 ヲ犯セシモノナリ人其隣人ニ對シテ正道ヲ行  
 フヘキハ營彼ノ隣人タルカ故ノミニ非ラス彼  
 モ亦天ノ造リシ物ニシテ天ヨリ之ニ對シテ正道

ヲ行フヘキヲ命セシカ故ナリ此故ニ少年長者  
ノ別ナク又各人ト萬國トヲ論ヒス不正ノ所行  
ハ何事ニ於テモ造物者ニ對シテノ職務ヲ破ル  
ニ因リ其罪タルヤ輕カラズ現世若クハ未來ニ  
於テ必ス天ノ罰ヲ受クヘレ

第二章

身體ノ自由及ヒ之ヲ妨ルノ方法ヲ論ス  
他人ノ妨ヲ為サレハ天ノ已ニ與ヘタル樂ノ具  
ヲ己ノ隨意ニ用フルノ權ハ各人皆一樣ナルヲ  
際ニ前ニ論ヒシカ如クニシテ其四肢百骸性情

ハ皆天ノ與ヘレ樂ノ具ナルカ故ニ人ハ皆他人  
ノ隨意ニ其樂ノ具ヲ用フルノ權ヲ妨ケサレハ  
亦隨意ニ己ノ身体性情ヲ用フルノ權アリテ他  
人ノ妨ヲ為サレハ己ノ樂ヲ得ヘキタメ其耳  
目手足ヲ用ヒ又己ノ欲スル所ノモノハ之ヲ學  
ヒ己ノ信スル所ノ事ハ之ヲ聽カント願フ人ニ  
傳ヘ己ノ可トリト思フ方ハ之ヲ用テ天ヲ拜ス  
ルノ權アリ唯之ヲ用ルニ他人ノ權ヲ妨ケサ  
レハ自由自在ニシテ人ノ束縛ヲ受クルノ理



獨リ父子ノ間ノミハ此例ニ非ラス

第一 父タルモノハ子ヲ養フノ任アリテ其子ノ所作ノ善惡ハ其父代リテ其責ヲ受ク故ニ父ハ其子ノ所作ヲ制御スルノ權無カルヘカラス又子ニ精神ノ教育及ヒ修身ノ教育ヲ授クルハ父タル者天ニ對シテノ責トリ故ニ父ハ其子ノ讀ムヘキ書ヲ撰ミテ之ニ教ヘ其子ノ受クベキ教ヲ擇ミテ之ヲ授クルノ權アリ

第二 父ハ子ノ成長シテ父ノ保護ヲ仰カサルニ至ルモノハ之ヲ使役スルノ權アリ此權ハ又

之ヲ他人ニ移スヲ得即チ師ヲ求メ其子ヲシテ之ニ事ヘシムルカ如キ是ナリ但シ父ノ子ヲ使役スルハ年齡ニ因其定限アルカ故ニ自ラ此權ヲ用フルヲ得ヘキ時間ハ之ヲ人ニ移スヲ得ルト雖モ其子ノ成人ニ至ルニ及テハ父ノ權全ク終リナル後其子ノ天與ノ權ハ父子ノ別ナク共ニ世間ノ衆人ト同等ノ地ニ居ルヘシ

身體自由ノ權ハ各箇ノ人之ヲ破ルアリ社中ニテ之ヲ破ルルハ左ニ其事ヲ論スヘシ

第一條

各箇ノ人ノ身體ノ自由ヲ妨ル事

各箇ノ人他人ノ身體自由ヲ妨ルノ最モ著キモノハ賣奴是レナリ  
賣奴ノ設バ甲ヨリ乙ニ錢ヲ與フレハ丙ヲ己ノ私有品トナシテ之ヲ用フルノ權アリトス因テ丙ハ己ノ樂ヲ得ヘキ為メ己ノ四肢精神等ヲ用フルノ權ナク只他人ノ樂ヲ達ス可キカ為メニノミ之ヲ用フルヲ得故ニ甲ハ人ノ樂ヲ奪フテ己ノ樂ヲ達スルヲ唯一人ノミニ限ラスシテ錢一出スニ多キ時ハ幾許ノ人ト雖此之ヲ用ヒ

テ己ノ樂ヲ達ス可キノ權ヲ得ルモノナリトス賣奴ノ設ハ畜ニ身體ノ自由ヲ得セシメサルノミニ非ハ其性情ノ自由モ亦得セシメサルヲ明カナリ其故ハ賣奴ノ設アルハ何事ニ於テモ其設ヲシテ永續セシムルニ必要ノ事ハ欠クハカラスレテ其性情ヲ束縛スルノ設ヲ永續セシムルニ必要ナルヲハ賣奴ノ制ヲ作ス可キヲ恐ルハ片ハ主人必ラス其性情ヲ束縛シ且之ヲ行フ權アリト稱セシテ見テ推知スヘシ  
經典ニ曰ク汝隣人ヲ愛スルヲ己ヲ愛スルカ如

此教ノ意味ハ上ニ解釋レタルカ如ク  
 我ニ人類中ニ我隣人ニ非サル者アルニ非サレ  
 ハ此教ハ斷然賣奴ヲ禁セシ者ナラサルヲ得ス  
 若シ世人普ク此教ニ從フハ縱令賣奴ノ設暫  
 時其迹ヲ存スルト雖モ其實ハ瞬間ニ之ヲ存ス  
 可カラザルハ明カナリ  
 白哲人種ヲ賣奴ト為スノ教ニ背クハ人皆之  
 知ル故ニバルバ里亞諸國亞非利加北方ニ於  
 テ嘗テ白哲人種ヲ賣奴トナセシハ人皆之ヲ教  
 ニ背クハトモ蓋シ色ニ黑白ノ差アルキハ脩身

ノ權、萌身ノ任トラレテ亦異ナラレハルノ  
 一リ也  
 賣奴ノ設ハ此ノ如ク教ニ背キレモノナレハ余  
 姑ク此設アリト看做シテ人ノ相互ノ職務ニ付  
 キ此ニ予カ意見ヲ述フ  
 他人ヲレテ盡ク天ノ與ハタル幸福ヲ受ケンム  
 ルハ是レ人ノ職務ナリ故ニ賣奴自ラ其一身ヲ  
 保護スルヲ得ハ一日モ之ヲ束縛スルハ不正  
 ノ所行タルヲ免レヌ故ニ其主人直チニ之ヲ免  
 シテ其自由ヲ得セシムヘシ若シ否ラサレハ之

二相當ノ給金ヲ與ヘ時間ヲ經ルノ後自ラ其身  
ヲ贖ハレムヘシ

若シ賣奴自ラ其一身ヲ保護スルヲ能ハサレハ  
其主人タル者之ヲ教育シテ其人品ヲ高クシ其  
才智ヲ進メ以テ其一身ノ保護ヲ得セシムルヲ  
己ノ職務トスヘシ若シ賣奴其一身ヲ保護スル  
ヲ得ルニ至ラハ主人ノ職務ハ前件ト異ナル  
トナレ  
又賣奴ハ何事ト雖ル天ノ誠ニ背キレトニ非ラ  
ヤハハ從順ナルヲ其職務トスヘシ故ニ主人ノ

行ノ所不正ナルカ為メニ賣奴自ラ其力ヲ恃  
兇暴ノ行ヲ為スノ理ナシ蓋シ賣奴ノ此ノ如ク  
為ルハキ所以ハ縱令害ヲ受ケルト雖ル温和堪  
忍從順ナル可キト是レ人ノ所行ニテリ應報ヲ  
與フル天ノ甚々好ミスル所ナルニ因レリ

第二條

社中身體ノ自由ヲ妨クル事

社中トハ各箇ノ人相聚リ共ニ一定セシメテ法則ノ  
支配ヲ受ケ可キ者ヲ云フ故ニ一家ハ即チ父母  
ノ定メタル法則ヲ以テ治ムル所ノ社中ナリ又入々

相聚リ社ヲ結ヒテ共ニ一定セシ目的ヲ達セシム  
ト欲スルモノアリ即チ理學社中仁惠社中等ノ  
如レ因テ之ヲ推言スルハハ一國モ亦一ノ社中  
ニシテ其國內各箇ノ人相聚リテ他ノ目的ヲ達  
セシムカ爲メ一定セタル法則ノ下ニ立ツモノナ  
リ  
天ヨリ各人ニ樂ノ具ヲ與ヘ且ツ他人ヲ妨ケサ  
レハ自由自在ニ之ヲ用フルノ權ヲ與フルトシ  
都テ一樣ナルハ既ニ之ヲ前ニ記セリ故ニ人他  
人ヲ妨リスレテ其樂ノ具ヲ用フル時ハ他人ノ

責ヲ受クルトナク若レ他人之ヲ妨クルハ之  
ヲ暴雲無道トテフ  
各箇ノ人他人ノ身體ノ自由ヲ妨クルカ如ク社  
中モ亦之ヲ妨クルトアリ故ニ一家舉テ一箇ノ  
人ニ敵レ共ニ之ノ害スルトアリ亦一國ノ人共  
ニ一致シテ一人或ハ數人ヲ害スルトアリ即テ  
夫ノ人ノ樂ヲ妨クル國法ヲ立テ暴雲ノ事ヲ行  
フカ如キ是ナリ  
各箇ノ人相聚リテ國ヲ爲スハ人ヲ選ミテ立  
法行法ノ事ヲ司ラシム是ヲ其國ノ政府ト名ツ

ケ其法ヲ立ツルノ官ヲ立法官ト云ト又其聚會  
 スルキ是ヲ公會ト名ケ其法ヲ行フ者ヲ裁判  
 人等ト云フ故ニ暴虐ヲ行フハ其實人民モ亦同意  
 セサルナキノ理ナリト雖ル暴虐ハ大抵政府ヨ  
 リ出ルモノナリ然ル時トシテハ又人民ノ政府  
 ニ逆ヒ暴虐ヲ行フアリ愚民ノ一揆ヲ起シ各  
 箇ノ人ヲ害スル大如キ是ナリ是ヲ暴虐無道  
 ノ最モ麗惡スヘキモノトス  
 第一 社中ニテ人ノ身体ノ自由ヲ妨クルト敷  
 アリ

其 罪無クシテ人ヲ執ハ或ハ故無キ事ヲ疑  
 フテ之ヲ執フル等是ナリ  
 其二 人縱令罪アリト雖ル公平ノ吟味ヲ遂ク  
 スシテ之ヲ罰スル等是ナリ蓋シ罪ノ證據分明  
 カルニ至ルマテハ唯疑念アルノミ若シ疑念ヲ  
 以テ人ヲ罰スルヲ許スルハ恐クハ無罪ノ人有  
 罪ノ者ト一樣ニ罪ヲ受クヘシ是レ世間ニ正道  
 ノ廢タレタル所以ナリ  
 其三 人ノ行カント欲スル處ニ行クヲ禁レ或  
 ハ他人ニ害ヲキ所願ノ事ヲ行フヲ禁スルカ如

キハ人ノ自由ヲ妨クルナリ譬ヘハ人ノ他國ニ  
行クヲ禁シ或ハ某ノ地一於テ商賣ヲ為スヲ許  
サ、ル等是ナリ此ノ如クシテ人ノ自由ヲ妨ク  
ル一歐羅巴亞細亞ノ諸國ニ於テ間見ル所ナリ  
第二 社中人ノ精神ノ自由ヲ妨クルニアリ  
其一 何物ニ於テモ人ノ好ム所ノモノヲ學ブ  
ヲ禁スルハ精神ノ自由ヲ妨クルナリ蓋シ教法  
ノ書及ヒ他ノ裨益ヲ書ヲ學ブコトヲ禁スル國  
アリ  
其二 人何事ニ於テモ他人ノ權ニ妨ナキ己ノ

說ヲ世ニ公シセント欲スルニ之ヲ禁ムルハ精  
神ノ自由ヲ妨クルナリ即チガリレフ以テ利國  
紀元一十<sup>六</sup>カ己ノ天文說ヲ世ニ公ニセント  
百年間ノ人欲セシ片之ヲ禁セシカ如キ是レナリ又教法ノ  
書ヲ世間ニ流布セシハルヲ禁スルモ亦精神ノ  
自由ヲ妨クルナリ  
然レハ人ヲレテ不良ノ情ヲ起サシメ或ハ人ヲ  
兇暴ニ誘ヒ或ハ人ノ評判ヲ害スル等ノ書ヲ出  
板スルハ之ヲ禁シ之ヲ罰スルヲ以テ社中  
職務トス然レハ公予ニ吟味シテ然ル後ニ之ヲ

行フヲ得可キノ何事ニ於テモ人ハ公平ノ吟  
 味ヲ受ケスシテ安リニ罰セラル、ノ埋ナレ  
 第三 社中ニテ各箇人ノ教法ノ自由ヲ妨クル  
 ニアリ蓋シ心性ヲ研クハ一ノ樂ノ具ナルヲ以  
 テ各人若シ他人ヲ害セザ、ハ己ノ好ム法ヲ  
 用ヒテ之ヲ研ク、自由自在ナリ社中此權ヲ破  
 ス、種數種アリ  
 其一 他人ニ害ヲ為サ、レハ何等ノ方ヲ用ヒ  
 天ヲ拜スルト雖モ妨ナレ然ルニ之ヲ禁スル  
 ハ教法ノ自由ヲ妨クルナリ

其二 如何ナル法ト雖モ天ヲ拜スルノ方ヲ定  
 メ人ニ命レテ之ヲ用ヒシムルハ教法ノ自由ヲ  
 妨クルナリ其故ハ斯ク其方ヲ定ムル時ハ之ヲ  
 用フル人ノ意ニ天ニ對スルノ任ニ於テ相反セ  
 リト思フ、アアレハナリ  
 其三 人此教法ヲ奉セシテ彼ノ教法ヲ奉ス  
 ルヲ以テ之ヲ罰レ又ハ何等ノ權ニ於テモ之ヲ  
 奪ハキハ教法ノ自由ヲ妨タルナリ  
 其四 教法ノ異ナルカタ、他ノ教法ヲ奉スル  
 人ニ許ス可キ便利ヲ與ハサルハ教法ノ自由



妨ヲルナリ蓋シ教法ハ全ク人ト天トノ間ノ  
事ニシテ若シ人ニ對スル職務ナリト思フ  
ヲ行フニ人ニ對スル職務ヲ破ルニ非サレハ社  
中之ヲ妨クルノ權ナク又天ニ對スル職務ナリ  
ト思フヲ行フテ人ニ對スルノ職務ヲ破ルキ  
社中之ヲ禁スルハ教法ノ善惡ニ管スルニ非ラ  
ズ只人ノ權ヲ破ルカ為メナリ  
一ノ教法ノミヲ許シテ他ノ教法ヲ奉スルヲ  
禁シ或ハ國法ニテ一ノ教法ヲ國教ト定メ其他  
ノ教法ヲ奉スル者アレハ之カ為メニ其當然ノ

權ヲ奪フカ如キハ教法ノ自由ヲ妨クルモノナ

### 第三章

#### 所有ヲ論ス

##### 第一条

所有ノ權ハ本義及ヒ之ヲ得ルノ原由

所有ノ權トハ他人ノ妨リヲ受スニテ已ノ隨意  
ニ物品ヲ用フルノ權ナリ譬ヘハ馬ヲ所有スル  
者ハ已ノ隨意ニ之ヲ使用シテ已ノ便ニ供スル  
ノ權ヲ有シ非常ニ殘酷ノ所為ヲ行フニ非サレ

他人之ヲ妨クルヲ得サルカ如レ然レモ亦其  
 馬ヲ使用スルニ因リ隣人ノ種植シタル燕麥ヲ  
 食ハシムヘカラス故ニ馬ヲ所有スル者ハ己ノ  
 欲スル如ク之ヲ使用スルノ權アリ是レヲ以  
 テ害ヲ隣人ニ加ヘタルリ辨解ヲ為ス能ハス  
 左ニ所有ノ權ヲ得ルノ方法ヲ論ス  
 其方法ニテリ即チ一ハ直ニ之ヲ己ニ得一、他  
 入ノ手ヲ経タル後之ヲ己ニ得  
 第一 直ニ之ヲ己ニ得ルノ方法  
 其一 天ノ賜

天ハ人ニ物ヲ欲スルノ念ヲ賦與シ且人ノ為  
 百物ヲ備フ故ニ人ハ之ヲ取テ禁スル者アルニ  
 非サレハ取テ以テ己ノ隨意ニ用フルモ妨ケナ  
 レ唯天ト人トニ對レテ己ノ行フヘキ任ニ背カ  
 サルヲ要スルノ益シテ荒漠無用ノ地ニ入り野  
 獸ヲ獵シ野果ヲ採リ或ハ河海ニ漁シテ魚ヲ獲  
 ハ等ノ權皆此道理ニ原クモノナリ  
 其二 己ノ勞働  
 人一區ノ地ヲ所有シテ己ノ手ヲ勞シ穀物ノ一  
 穗ヲ得ルカ之ヲ得ルカ為メ己ノ力ヲ役レタメ

勞動ハ即己ノ身ヨリ出テタル勞動ナルカ如ク此一穗ノ穀物モ亦己ノ穀物ナリ然レモ己レ若レ他人ノ所有スル地ヲ耕作シテ穀物ヲ得ルキハ唯雙方協同シテ定ヌタル一部ノミヲ己ノ所有トスルヲ得ヘレ是レ地ヲ所有スル者ハ地ノ利益トレテ其一部ヲ得耕作スル者ハ勞動ノ價トレテ其一部ヲ得ルモノニシテ之ヲ俸金ノ本義トス

第二 人ノ手ヲ經タル後之ヲ己ニ得ルノ方法  
其一 貿易

人ハ物ヲ所有スルハ他人ノ妨ヲ受ケズシテ隨意ニ之ヲ用フルノ權アリ故ニ己相當ト思量スルキハ其物ヲ他物ト貿易スルノ權アルヲ因ニテ論ヲ待タズシテ隣人セ亦同一ノ權ヲ有スルカ故雙方互ニ物品ノ貿易ヲ為スヨク得ヘク既ニ斯クハ如ク貿易ヲ為スキハ其貿易ヒレ物品ヲ己ノ所有トナシテ保クヘキヲ當然ナリ

其二 贈遺

人ハ償ヲ得テ己ノ所有スル物ヲ他人ニ與ヘ他人之ヲ得テ妨ケナキカ如ク若レ己ノ意ニ適ス

ルルハ、償ヲ得スレテモ之ヲ他人ニ與フルコトヲ得ヘシ即チ仁惠愛情感恩ヨリ起ルモノ是ナリ此方法ニ於テモ亦人ニ所有ノ權ヲ與フ

其三 遺囑

人ハ生時其所有スル物ヲ自ラ處置スルノ權アリ故ニ之ヲ貿易レ或ハ己ノ相當ト思量スルルル死前ニ他人ニ與フルヲ得ルカ如ク亦遺囑ヲ為シテ死後ニ之ヲ人ニ與フルコトヲ得ルナリ其四ノ遺産

ノ儘遺言ニ為サスレテ死スルコトアリ故ニ社中

其遺産ヲ處置スルノ方ハ死者ノ情願如何ナルヲ懸察スルニ在リ妻子アル者ハ妻子ニ分配シ妻子ナキ者ハ其最近ノ親族ニ分配スルヲ死者ノ情願ト思定ス故ニ遺産ニ關係スル國法ハ此道理ニ原キテ定メタルモノナリ此方法モ亦人ニ所有ノ權ヲ與フ

其五 所持

人其所有ノ權ヲ得ルノ證據不明ナラスレテ物ヲ有スルト雖モ他人其之ヲ有スヘキノ確證ナルニ非サルハ其權ヲ妨クヘカラス是蓋シ人ノ

證據分明ナラザルヲ以テ之ヲ奪フモ已亦確證  
ナキヲ以テ忽チ他人ニ奪ハレ此ノ如クナルモ  
一人ノ敢テ利ヲ得ルヲナク其争止ム時ナキ  
ニ因レリ

是ニ概論スルヤハ所有ノ權ハ固ト天賜若クハ  
己ノ勞動ニ因リ之ヲ得テ然ル後ニ貿易贈遺遺  
囑及シ遺產ニ因テ之ヲ得ルモノナリ蓋レ所有  
ノ權ニ授受スルハ本主ノ現ニ同意セレバ或ハ  
社中其本主ノ同意セシト想定ヒ、ニ非サレハ  
如トモハ一遺產ノ脩身ノ道ニ背クモノトス又人

所有ノ權ヲ得タル確證ナシト雖モ他人之ヲ奪  
スヘキノ確證アルニ非サレハ唯己ノ所有權ニ  
テ以テ他人ノ妨ヲ防クニ足レリトス

第三条

所有ノ權ヲ犯ス事

所有ノ權ハ既ニ上ニ論スル如ク他人ノ妨ヲ受  
ケスレテ己ノ隨意ニ其物品ヲ用フルノ權ニレ  
テ此權ハ己ノ專權ナルカ故ニ其所有物ヲ用フ  
ルハ何人ヲ問ハス之ヲ妨クルノ權ナク且此權  
ハ普ク人ノ所有物ニ及ブモノニシテ人ハ己ノ

有ニ非サル物ノ全部ヲ奪フノ權ナキカ如ク此  
セノ一部ト雖比亦之ヲ奪フノ權ナレ故ニ一顯  
ノ子葉ニ盜ムモ一匹ノ馬ヲ盜ムモ官ノ所有物  
ヲ取ルモ私ノ所有物ヲ取ルモ所有ノ權ヲ犯ス  
ニ至テハ毫モ輕重ナレ  
所有ノ權ノ授受ノ之ヲ授クル者甘ンレテ受ク  
ル者ト同意セレニ非ラサレハ真ノ授受ニ非ラ  
サレト亦既ニ上ニ論スルカ如ク且縱令之ヲ授  
クル者其受クル者ト同意レテ之ヲ為ス一顯ハ  
若シ受クル者不正ノ方法ヲ以テ授クル者ノ心

ヲ動カレ其權ヲ得ルカ如キハ互相ノ同意ヲ以  
テ之ヲ得タルト為スヘカラス譬ヘハ死ヲ以テ  
人ヲ脅カシ其錢ヲ要ムル片人必ス死ヲ恐レテ  
錢ノ與フルヲ肯ンスルト雖比其授受ノ方ニ於  
テハ其正レキノ以テシタルト為レガタキカ如  
ク又虚言ヲ吐キ授クル者ノ心ヲ惑ハレ同意セ  
レムルカ如キモ亦同一ニレテ蓋レ一ハ盜賊一  
ハ詭騙ナリ故ニ總テ所有ノ權ノ授受ニ於テ之  
ヲ受クル者不善ノ所行ヲ為シ授クル者ヲレテ  
同意ヒシムルヲ得タル片ハ備身ノ道ニ背クモ

ノトス

上ニ論スル所ニ因リ左ノ諸件ノ如キハ所有ノ  
權ヲ犯スモノトス

第一 本主ニ告スレテ其所有物ヲ取ルルハ即  
チ竊盜ナリ縱令本主之ニ掛念ヒス或ハ覺寤セ  
ヌ或ハ違拒ヒサルハト雖ル其所行ニ於テハ  
毫モ盜賊ト異ナルトナク唯本主ノ同意セレバ  
否ヲ問フニ過トスレテ若シ同意ヒサリレバ  
其所作即チ竊盜タルヲ免レヌ  
第二 カヲ以テ他人ヲ同意ヒシメ以テ其所有

物ヲ奪フ即チ強盜ナリ

蓋シ強盜ハ先ツ人ヲ生殺スルノ權ヲ持レテ然  
ル後ニ人ヲレテ死ニ就クカ將々其所有物ヲ與  
ヘテ生ヲ求マルカノニテ擇ムレム是レ人ノ權  
ヲ犯スル最モ甚タシク且常ニ人ノ生命ヲ危  
ス故ニ嚴ニ之ヲ罰シテ死罪ニ處スル國多シ  
第三 人ヲ欺キ其同意ヲ得ル

此類ニ種アリ

其一 物ヲ受ケテ償ヲ與ヘザルハ譬ヘハ乞兒  
ノ虚言ヲ吐キ錢ヲ乞フカ如キ是ナリ

其二 與ナル所ノ債ニ於テ名實符合セサル所  
此第二項ハ所有ノ權ヲ犯スル最モ多キ方法ニ  
レテ且他ノ方法ノ是ヨリ出ルモノ夥シキ故  
詳ニ之ヲ論ス

此論分チテ三条トス

- 第一 債有形ノ物ニレテ授受永久ナル所
- 第二 債有形ノ物ニレテ授受一時ナル所
- 第三 債無形ノ物ナル所

第三条

債有形ノ物ニレテ授受永久ナル所

自ノ定則即チ賣主買主ノ定則

賣主買主ノ定則ハ互ニ其相管スル地位ヲ以テ  
考フル所詳カニ之ヲ知ルヲ得ハレ蓋シ人一斤  
ノ茶若クハ一尺ノ布ヲ己ノ用ニ供スルヲ欲ス  
ト雖ル一斤ノ茶ヲ求ムヘキ為メ支那ニ赴キ一  
尺ノ布ヲ買フヘキ為メ製造所ニ行クノ得  
故ニ人ヲレテ己ノ為メ常ニ此等ノ物品ヲ備ヘ  
シメ己ノ需用セシト欲スル片錢ヲ出シテ其欲  
スル分量ニ隨ヒ之ヲ買ヒ用フルヲ以テ便利ヲ  
得因テ商人ハ亦其便利ニ供セント欲シ其熟練



二因リ物品ノ羨惡真偽ヲ知察シ且時間ヲ用ヒ  
 貨財ヲ出シテ之ヲ買ヒ常ニ藏シテ以テ賣與ヒ  
 ンコヲ欲ス是レ雙方互相ノ利益ニシテ商人ハ  
 其練熟才能ヲ盡シテ客ノ利益ヲ謀リ買主ハ商  
 人ノ用フル所ノ時間練熟諸費ニ充ツハキ相當  
 ノ償ノ與フルヲ其職務トス  
 第三ノ商人ハ世間通常賣ル所ノ物品ト己ノ同  
 等ノ物品ヲ同價ヲ以テ賣リ與フヘシ蓋シ商人  
 ハ物品ノ買入ヲナスニ其練熟ヲ以テ利益ヲ得  
 故ニ其練熟ヒサルハ己ノ過トスラ

以テ自ラ其損失ヲ受クヘシ  
 商人若シ詐欺ヲ受ケ粗惡ノ物品ヲ買シキハ己  
 良好ノ物品ト同價ヲ出シ買入タル故ヲ以テ之  
 ラ市價ニ賣リシラスルノ權ナシ故ニ若シ極  
 テ賤價ヲ以テ物品ヲ買入レキハ己ノ練熟ニ因  
 ルカ故其利ヲ受クヘシ蓋シ己ノ物品ヲ買入ル  
 ニ若シ練熟ヒサルキハ其出シタル價ヲ論シ  
 物品ノ實價ヲ以テ之ヲ賣リ其損失ヲ受クヘシ  
 上ニ論スル所ノ如シト雖モ買主若シ自ラ危險  
 コ冒シ物品ヲ買フキハ此規則ノ外ニシテ譬ヘ

ハ糶賣ニテ馬ヲ買フニ賣主敢テ隻言ヲ發セザル時ノ如キ是レナリ蓋レ此時ハ買主ノ自ラ檢査決斷シテ其價ヲ命スルモノトス

第二 商人ノ市價ニテ物品ヲ賣ルハ其職務タルノミニ非ラス又其自由ニ因ルモノナリ蓋レ市價ニテ賣ルノ職務ナルハ常ニ商人ノ買主ニ説クニ己ノ賣ル物品ノ市價タルヲ信セシメンカハルヲ見テ了知ス、又市價ニテ賣ルノ自由ヲ有スルハ其職スル所ノ物品若レ價ノ減スルハ商人ノ同價ヲ以テ賣ラサルヲ得ス

シテ若シ否ラサレハ一人敢テ買フ者ナキヲ見テ之ヲ知ルヘシ斯ク價ノ減スルハ賣主其損失ヲ受クサルヲ得サルニ因リ若シ價ノ増スルハ隨テ其價ヲ貴クスルモ亦妨ナシ即チ一桶ノ麵粉ヲ五ドルヲルノ價ヲ以テ買ヒ其價減シテ四ドルヲルニ下ルルハ之ヲ四ドルハラニ賣ラサルヲ得ス又其價増シテ七ドルヲルニ上ルルハ其買入タル價ヲ論セス之ヲ七ドルヲルニ賣テ可ナリ

第三 上ニ論スル所ノ如シト雖モ賣主物品ノ

實價ノ外別ニ方便ヲ用ヒ買主ノ心ヲ動カスノ  
權ナシ

賣主ハ買主ノ畏懼希望若クハ其貪欲ニ憑藉ス  
ルノ權ナク又詐テ物品ノ增多若クハ價之ノ風  
評ヲ流布セシメ或ハ之ヲ推買シテ價之ヲラレ  
或ハ買主ノ幼弱又ハ事故ニ練熟セス或ハ其  
誇大ヲ好ムノ心ニ乘レ鼓舞シテ多ク買入シノ  
或ハ高價ニ賣與へ或ハ常ニ良賣手ト稱スル者  
ノ用フハ手段ヲ行フノ權ナレ

第四 上ニ論スル所ハ之ヲ買主ニ施スモ亦毫

厘ノ差異ナク賣主買主ハ互ニ其任トスル所同  
一ニシテ相對スルモノナリ故ニ買主ハ賣主ニ  
其用ヒタル勞動時間ト其費用ノ利息ト其危險  
トニ相當ルヘキ償ヲ與ヘサルヘカラス又虚誕  
ノ報告ヲ為レ若クハ己ノ買入ルヘキ物品ノ價  
ヲ賤クセンカ為メ詭計ヲ用ヒテ賣主ノ心ヲ動  
カスヘカラス世上間買主賣主ニ對シテ曰ク此  
物一文錢ニ當ラス此物一文錢ニ當ラスト而シ  
其物ヲ買ヒ其處ヲ去レハ人ニ對シテ却テ其價  
ノ廉ナルニ誇ル嗟何ノ其鄙劣ナルヤ

上ニ論スル所ニ循フキハ人或ハ其妻子ヲ給養  
 スルヲ能ハスト謂テ之ヲ難スル者アレハ無稽  
 ノ論ト謂フヘシ夫レ人ハ不正ノ所行ヲ為シテ  
 天ノ教ニ背クヨリ寧ろ貧賤ニシテ其身ヲ潔ウス  
 ルノ勝レルニ如カスレテ賣主買主此規則ニ從  
 ヒ事ヲ為スキハ其就成スル所互ニ相欺騙セン  
 ト欲スルヨリ大ニ勝ルモノアルヘシ蓋シ人ノ  
 己ヲ欺騙セント欲スルハ敢テ相共ニ賣買セザル  
 ハ其理アリト雖モ己亦之ヲ欺騙セント欲スル  
 ハ其理ニ於テ相反セリトス

第五

賣主買主互ニ授受ス

ハ其責買ノ契約時ニ決セ

テ然ル後

ハ銀ノ物品未買業ノ手ニ入ラズト雖モ損失

主ト利益ノ事トハ全ク買主ニ屬セリトス故ニ

契約既ニ決電レテ物品未交付セサル中若シ其

物毀損スルキハ即チ買主其損失ヲ擔當スハハ

然レ若シ契約ニ於テ其交付セ亦賣主ノ任ニ定

ハルキハ此例ニ非ラザルリ故現ニ交付ヲ為シ  
 ニ至ルマテ其損失ヲ總テ賣主擔當スヘシ故ニ  
 人若シ馬頭ニ於テ一車ノ石炭ヲ買ヒ馬頭廟水

ノ為ニ洗去セラレテ其石炭ヲ失フキハ買主ノ  
損失ニレシ若シ一車ノ石炭ヲ買ヒ之ヲ己ノ家  
ニ送致スハキ價ヲ償ヒ其車途中ニ於テ覆リ石  
炭ニ失フルハ賣主ノ損失ナリ

第六 賣主所有ノ物品其價自然ニ騰貴シテ買  
主之ヲ知ルルハ必ズ其賣主ニ告知スハキ若シ  
告知セズレテ之ヲ買ヒキハ是欺騙ナリ夫レ人  
ノ所有スル物品其所有ノ時間ニ其價ヲ増加シ  
ルキハ其利益ノ其人ニ屬スルヲ稱物品ノ其人  
ニ屬スルカカ如シ蓋シ人固ト其物器ヲ奪フノ權

ナレ豈其利益ヲ奪フノ權アラシキヤ  
人賣買ヲ為ス時此等ノ教ヲ顧ミサルト少ク  
ラス恐ルヘキノ甚シキナリ蓋シ人名實相合シ  
ル物品ヲ賣ルハ即チ此等ノ教ニ背クモノナレ  
テ譬ヘハ葡萄酒ニ他物ヲ混シ之ヲ稀薄ニナレ  
或ハ通常ノ量ヲ減シテ人ニ賣與スルカ如キ是  
ナリ又假ヲ以テ真ニ易ヘ以テ人ニ賣與スルモ  
亦此教ニ背クモノニレテ譬ヘハ綿麻混合ノ物  
ヲ以テ麻布ナリト言做スカ如キ是ナリ然ルニ  
不善ト雖モ廣ク世上ニ行ハル、事ハ捨テ善事

タルカ如ク此等ノ所行ノ世間一般ノ常態ニシテ特ニ一人ノ行フ所ニ非ラサルカ故ニ人皆以テ其非ヲ飾ルノ辞ト為スヲ欲スレバ實ハ不通ノ論ト謂フヘキナリ夫天ノ定則ニ曰ク汝貪ル勿レト故ニ縱令何レノ人此教ニ背キ幾多ノ人此教ニ従ハスト雖天ハ毫モ相管セス只人ノ行フ所ニ因リ以テ之ヲ賞罰スヘシ

第四條

一時ノ授受即チ借貸

入常ニ時ヲ期シ他人ノ所有物ヲ借用ヒト欲

フルコアリ然ルハ之カ為メニ相當ノ價ヲ償ハサルヘカラス蓋シ其借用ノル所ノモノ金錢ノキハ其價ヲ息銀ト云ヒ他ノ物品ナルハ之ヲ借貸ト云フ

此償ノ多寡ヲ決定スルニハ左ノ原由ニ原クモナリ第一使用第二危險

第一 使用 所有物ニ其用ヲ為スノ大ナルモノアリ又小ナルモノアリ即チ利ヲ生スル多寡ノ謂ニシテ甲乙二箇ノ田ニ就キ之ヲ言ハハ甲ハ乙ヨリ穀ヲ産スルコト多キ類ノ如ク又一物ニ

於テモ亦時ニ隨ヒ其價ノ増減スルヲアリ譬ヘ  
 ハ田ヲ借ルヲ欲スル者多キハ無用ノ田多ク  
 シテ借人ナキノホニ比スレハ其借賃ノ貴キヲ  
 當然タルカ如シ

第二 危險 本主其所有物ヲ貸與スルニ危險  
 ノ大ナルアリ又小ナルアリ即チ田ヲ貸ス、危  
 險ハ船ヲ貸スノ危險ヨリモ小ニシテ家ヲ貸ス  
 ノ危險ハ馬ヲ貸スノ危險ヨリモ小ナリ故ニ此  
 危險ノ大小ニ因リ其償ニ多寡ノ異アルハ當然  
 ノ理ニシテ借賃ノ多寡ハ常ニ使用ト危險トヲ

算レ以テ之ヲ定ム

借貸ニ二種ノリ第一ハ金錢ノ借貸第二ハ他ノ  
 所有物ノ借貸ナリ

金錢ノ借貸

第一 債主ハ資本ノ使用ト其危險トノ償ヲ得  
 ルニ相當ノ則チ踰ユハカラス

第二 債主ハ不正ノ方ヲ用ヒ借主ノ心ヲ動ス  
 ハカラス其理ハ即チ賣買ト相異ナルヲナシ

第三 借主ハ上ニ言ハル如キ相當ノ償ヲ償ス  
 ヘノ且不正ノ法方ヲ用ヒ債主ノ心ヲ動スヘマ

フセハ、借主ノ借主ニ於ルカゴトニ  
 第四 所有物ノ危険ハ本主ノ償ヲ得ヘキ所以  
 ノ其一ナルカ故借主債主ノ所有物ヲシテ契約  
 外ノ危険ヲ受ケシムハカラス  
 故ニ借主ハ其借タル金錢ノ契約外ノ危険ナハ  
 商業ニ使用シ或ハ之ヲ遊遊ノ方ニ使用スルノ  
 權ナシ若シ此等ノ事ニ使用スルガハ是ニ其償  
 ヲ出ヤハシテ人ノ所有物ヲ用ノルナリ又借主  
 ハ其損失ヲ避クハ留意スルニ猶己ノ所有物  
 ノゴトグレテ且己ノ練熟ニテ方法ヲ盡シ能

之ニ委置シテ其就成ヲ期スル猶己ノ所有物  
 ト異ナルヲキガゴトクスルヲ其任トス  
 第五 借主ハ契約上ニ記シタル条件ニ毫モ差  
 異ナク其償ヲ交還シテ約束ノ總額ヲ償ヒ約束  
 ノ期日ヲ違ハサルヲ要ス縱令其一ヲ缺クモ亦  
 契約ヲ破ルモノナリ  
 借主家資令散ヲ為スルハ脩身ノ道ニ於テ其責  
 ヲ免ルヤ否是常ニ人ノ疑ヲ容ル可ナリ  
 余、見ヲ以テ之ヲ論スレハ借主後ニ之ヲ償  
 ノカヲ得レハ其責ヲ免レス人或ハ言フ此ノ如



キキハ借主殊ニ其嚴酷ニ堪ハ難シト余試シニ  
 問フ若シ之ニ反スルキハ亦是レ債主ノ堪ハ難  
 キ所ニ非スヤ且夫一人ノ權ハ他人ノ權ノ如ク  
 貴重ナラサルヤ一人ノ權ハ他人ノ權ト同等ノ  
 權ニアラサルヤ

他ノ所有物ノ借貸

此ニ論スル所ノ理ハ前ニ記載シタル所ト其理  
 殆ント相同シ

第一 貸主ハ借主ノ用ニ... 物品ヲ貸與ス  
 ... 其任トス故ニ其貸與スル所ノ物其實虧欠

アル所アレハ必ス之ヲ告知スハレ假令ハ令馬  
 フ貸スニ日ニ四十里外ノ路程ヲ行カント欲ス  
 ル人ニ其馬ノ三十里ヨリ遠行スハムラサルヲ  
 知り之ヲ貸スハ詭騙ナリ又家屋ヲ貸スニ其近傍  
 ニ不潔ノ地アリ或ハ烟突ノ烟一因リ其家屋ノ  
 半ハ住居シ難キヲ知リ之ヲ告スレテ人ニ貸ス  
 モ亦詭騙ナリ夫レ所有物ノ價ヲ欠クハ己ノ損  
 失ナリ然ルニ之ヲ人ニ移シ人ヲシテ其損失ヲ  
 受ケニムルノ理アラシヤ

第二 貸主ハ價ノ減スル時其損込ヲ受クルニ

等々使用ト危険ト供給ノ多少トニ因リ市價ノ増ス時ハ亦從テ貸貸ヲ増スノ權アリ是前ニ記シタル所ノ理ト同一ノ理ニ原クモノナリ

第三 借主ハ其借受ケタル所有物ニ留意スヘキヲ猶己ノ所有物ニ等ウシ之ヲシテ契約條中ニ記載シ或ハ包含シタル危険ノ外他ノ危険ヲ受ケムルヲ且上ニ記シタル理ニ原キ其價ヲ償フヲ己ノ任トスヘシ又貸主及ヒ借主ハ通常ノ貸借外ノ方法ヲ用ヒ對手ノ心ヲ動カスノ權ナシ

第四 借主、其借受ケタル所有物ヲ約定ニ從ヒ原ノ差異ヲ交還スヘレ即チ其方ハ預メ限定シタル期日ニ之ヲ交還スヘキト通常ノ損耗ヲ除クノ外其借受ケタル時ノ形状ニ從ヒ之ヲ交還スヘキト、二事ニレテ若シ人一年ノ間家屋ヲ借り其牆壁ヲ損壞シテ貸主借賃ノ半ヲ費スニ非ヤレハ修理シテ復シ人ハ貸與シ難キニ至ラレムニ是ハ詭騙ノ甚タレキモノナリ即チ其道ニ背クハ恰モ借賃ノ總額ヲ償ヒ然ル後復シ本主ノ囊裏ニ就キ其半ヲ偷ムカ如シ

茲ニ緊要ノ疑團アリ借主ノ借ヲ用フル中若シ  
損失ノ生スルハ其損失孰レノ人カ之ヲ受ク  
ハキ予ノ見ル所ニ於テハ左ニ論スルカ如シ  
第一 借受ケタル所有物ヲ用フルニ借主契約  
上ニ記シタル方法ヲ守リ損失ノ生シタルキハ  
貸主其損失ヲ受クハ是レ貸主ノ預メ其危険  
ヲ算定シテ其償ヲ受ケシモノト看做スヘキヲ  
以テナリ  
第二 若シ契約外ノ方法ヲ以テ之ヲ用ヒタル  
一因リ損失ノ生シタルキハ借主其損失ヲ受ク

ハ故ニ馬ヲ借リテ寧ニ之ヲ使用シテ契約上  
ニ記シタル用ニ供シ其時間ニ馬ノ死スルキハ  
是レ貸主ノ損失ニシテ若シ駕御其心ヲ用ヒ  
以テ馬ノ死スルキハ是レ借主ノ損失ナリ因テ貸  
主ハ良馬ヲ貸シ借主ハ能ク駕御スルヲ其任  
ス  
第三 借受ケタル物ニ意外ノ利益ヲ生シタル  
キモ亦同一ノ理ニシテ其利益契約中ニ記シ  
ルモノナレバ借主之ヲ受クハク否ラサレハ敢  
テ之ヲ得ルノ理ナレ蓋シ人ノ田ヲ借り耕作シ

ナスニ穀物ノ價騰貴シ或ハ耕作ノ練熟セレニ  
因テ其利益ヲ得ルハ別ニ借賃ヲ加ハスレテ  
之ヲ取テ可ナリト雖モ若シ其土地中ニ於テ石  
炭坑ヲ檢出ヒシ類ノ如キハ元來石炭ヲ得ヘキ  
為シ其土地ヲ借リレニ非ラサルカ故之ヲ掘テ  
其利ヲ得ルノ權ナシ

### 危険保管

人ノ所有ニ常ニ風雨水火ノ為メ損失ヲ受ケル  
ノ恐アリ之ヲ危険ト云ヒ他人之カ為メ保管ヲ  
為シ多ク償ヲ得テ本主ニ代リ其危険ヲ受

クニト約スルヒノナリ譬ハ我家火災ノ恐ア、  
ルヲ以テ隣人ト約ヲ結ビ毎歲二十トルヲ  
與フレハ己ノ家火災ニ罹リレキ隣人其損失ヲ  
償フヘク又一艘ノ船ヲ支那吾々ハ他處ニ運致  
ヒニト欲スルキ保管人ニ多少ノ金ヲ給スレハ  
其破船ヒレキ保管人其價ヲ償フヘキノ約ヲ為  
ス之ヲ危険保管ト云フ蓋シ此保管ハ衆人相聚  
リ社ヲ結テ之ヲ為スル危険保管社中ノ名ケテ  
人ニテ保管ヲ為スルハ之ヲ保管人ト云フ  
此規則ハ甚々簡明ノモノニシテ蓋シ保管ヲ乞

作身言 行爲一  
フ者ハ危險ノ價額ニ管スル條件ヲ毫ヒ掩匿セ  
ス仔細ニ其保管ヲ為ス者ニ告知シテ其知識ノ  
及フ所ハ保管ヲ乞フヘキ物品ニ己ノ言説スル  
所ト一點ノ齟齬スルナキヲ要スヘク且其物品  
ヲモテ保管人ニ告知セタル危險ノ外更ニ他ノ  
危險ヲ受ケレムヘカラス若シ他ノ危險ヲ受ケ  
ルハ是其契約ノ外ニシテ保管其用ヲ為ス  
ル故ニ縱令損失ヲ生スルト雖モ保管ヲ為  
ス者敢テ之ヲ償フテ肯シセスレテ若シ安全ナ  
シハ其保管金ヲ返スヘシ然レモ預メ契約レ

タルカ如クニシテ損失ノ生シタルキハ保管人  
其契約ニ從ヒ正シク之ヲ償フヘシ  
保管ノ價額ハ今此ニ論スルモ亦無用ニ屬シ唯  
其多寡ハ危險ノ大小ニ因リ自ラ一様ナラズ  
テ且各種ノ條件アリ保管人及ヒ保管ヲ乞フ者  
宜シク相與ニ商議シテ之ヲ定ムヘシ

第五條

無形ノ償ニテ貿易スル事

此條ニ説ク所ハ主僕ノ間ヲ論スルモノナリ  
人常ニ他人ノ力ヲ借テ己ノ用ニ供セント要ク

ルコアリ其類一ナラス或ハ家事ヲ行フニ他人ノ助ヲ要シ或ハ職業ヲ為スニ他人ノ助ヲ要ス然ルキハ相當ノ償ヲ出シ以テ其助ヲ借ルヲ需メ其需ニ應スル者アリテ互ニ契約ヲ定ムルキハ即チ一人ノ勞動ト一人ノ金錢トノ貿易ナリ蓋シ此兩者ノ中孰レノ人ヲ問ハズ其對手ニ相當トサレ償ヲ要シ若レクハ償ノ額既ニ定マリニ後其約束ニ背クルハ不正ノ所行タリ

一 主人ハ其僕ノ勞動ニ易ハテ相當ノ償ヲ與ヘリレハカラス然レモ其償ノ額ハ時ニ隨ヒ

屢變化シテ多寡一様ナラサルノ患アリ故ニ兩者ハ互ニ契約ヲ為シ以テ預メ之ヲ定ムルヲ其常ニシ且此貿易ニ於テモ亦他ノ貿易ニ於ルヤ如ク兩者互ニ其對手ノ希望畏懼ノ念ニ乘レ或ハ道ニ背キタル方法ヲ用ヒ其心ヲ動カシテ此貿易ノ為スヘカラス

主人ハ其僕ニ與ヘント約シタル償ノ多寡ヲ差ハス期日ヲ誤ラズ其償ヲ與フヘシ貧窮ニシテ力役ヲナス者ノ俸給ヲ遲延スルハ不正之ヨリ甚シキハナレ蓋シ貧窮ニシテ力役ヲナス者ノ

如キハ國法ニ憑籍シ若クハ衆議ヲ沸騰セシメ  
 以テ其償ヲ得ルノ力ナキカ致ナリ  
 經典ニ曰ク汝ノ田ヲ刈リタル傭丁ニ欺キ其傭  
 銀ヲ與ハザレハ傭銀叫シテ其聲天ニ聞ニト  
 主人ハ其僕ニ契約中ニ包含セテ勞動ヨリ多ク  
 ノ勤勞ヲ要スヘカラス且其身體ノ健康ト心神  
 ノ脩養トヲ重シクテ之ヲ害スルコト勿レ人類ヲ  
 使役シテ其堪ヘ難キノ甚タレキニ至ラシメ或  
 ハ精神ヲ研キ教法ヲ學ブノ暇ヲカサシムルハ  
 大惡ノ所行ナリ然レバ兩者互ニ同心シテ其約

束ヲ結ハレバハ傭ニ主人ノ貪欲ニ因ルノミナ  
 ラズ下其僕タル者ノ貪欲ヨリ起ルモ僱メナ  
 カラサルカ故相與ニ其咎ヲ分ツハ  
 第一 僕タル者ノ務ハ傭ニ約束ニ背カサルノ  
 ミヲラス且其約束ノ旨趣ニ從テ勞動ヲ為スヘ  
 レ故ニ僕若レ主人ノ為メ用フヘキノ約ヲ為レ  
 タル其時間ヲ懶惰若クハ無用ノ談話ニ費ヤレ  
 或ハ何事ヲ問ハス其職務ニ非ラザル事ニ之ヲ  
 用フルキハ其不正ノ罪偷盜ヲ行フト異ナレト  
 ナレ蓋シ僕ノ勞動ヲ為シテ受メタル

主人ノ僕ニ與ノヘキ錢ヲ償ハサント同一ノ詭  
騙ナリ  
主人ハ嘗ニ僕ノ身體ヲ用フル、ミニ非ス亦其  
精神智識ヲ用フルモノナリ故ニ僕タルモノハ  
常ニ敬慎シテ主人ノ利益ヲ謀ルヘク若シ其敬  
慎セサルニ因リ主人ノ所有物ニ損失ヲ生スル  
キ、是レ契約ヲ破ルモノニシテ僕タル者其損  
失ヲ受クヘシ  
且ニ詭ク所ハ唯主僕ノ契約ヲ守ルヘキ公道ノ  
論ニシノミト雖モ經典ニ載スル所ノ仁慈ノ旨

趣ヲ考フレハオ僕ノ間ハ此公道ヲ守ルノ外猶  
其職務アルヲ知ル蓋シ主トナリ僕トナル者ハ  
相與ニ親切ヲ盡クシテ好意ヲ表スヘキ際會ノ  
地ニ處ルモノト互ニ思量スヘシ是即チ經典ノ  
旨趣ニシテ主人ハ唯其約束ノ条ニ背カス僕ヲ  
使用スルノミナラス己ノカヲ盡シテ僕ノ幸福  
ヲ謀リ僕ハ亦主人ノ委託シタル事ヲ重シ之ヲ  
敬慎スルヲ言語ヲ以テ悉スヘカラサルカ如ク  
注意ヲ加フヘシ此ノ如クナルヤハ主僕相甘シ  
テ互ニ其好意ヲ盡クシ兩者之カ為メ其品性ヲ



高クシ大ニ其幸福ヲ増スヘシ  
 我合衆國ニ於テ漫ニ主僕ノ名ヲ惡クハ甚々謂  
 テト云フヘシ夫レ世上何人ヲ問ハス錢ヲ出  
 レテ他入ノ勞動ヲ買フ者ハ是即チ主人ニシテ  
 其勞動ヲ賣ル者ハ即チ僕ナリ故ニ人或ハ主人  
 タルコトアリ或ハ僕タルコトアリ譬ハ甲乙ニ錢  
 ヲ與ヘ一對ノ履ヲ造ラシムレハ乙ハ甲ノ僕ニ  
 シテ若シテ甲ニ錢ヲ與ヘ其子ヲ教ヘシムル所  
 ハ甲ハ乙ノ僕ナリ故ニ主僕ノ名ハ固ヨリ厭惡  
 スヘキノ理ナクシテ主人トナルモ榮トスルニ

足ラス僕トナルモ辱トスルニ足ラス唯能ク其  
 職務ヲ行フヲ以テ榮トシ其職務ヲ怠ルヲ以テ  
 辱トスヘシ

第四章

品性ヲ論ス

人若シ他人ノ品性如何ニト問フ者テルキハ則  
 チ己ノ説ヲ述ヘテ其精神此ノ如ク其才能此  
 如ク其器量此ノ如ク信スル所ノ道ハ此ノ如ク  
 習慣ハ此ノ如シト現今見ル所ノ形狀ヲ以テ之  
 ニ答フ之ヲ其人ノ品性ト名ツク

品性ノ善良ナルハ人ノ所有中ニ於テ最モ貴重  
 スヘキモノナルコトハ固ヨリ論ヲ待タズ總テ現  
 世ノ樂ハ皆品性ヨリ出テ未來ニ於テ樂ヲ得ル  
 ノ望モ亦品性ニ由ルノミ  
 故ニ道理ヲ推シテ之ヲ考フルキハ人ノ他人ニ  
 施ス益ノ最モ大イナルハ其品性ヲ改ムルニ在  
 テ害ノ最モ大イナルハ其品性ヲ損フニ在ルコ  
 明カナリ  
 人間相互ノ職務ノ定例ニ由ルキハ人何等ノ口  
 實アリテ何様ノ方法ヲ用フルモ他人ノ品性ヲ

損フヘカク

他人ヲ損ヒ壞ルヲ警ムルハ經典中ニ於テ人ヲ  
 警ムルノ最モ嚴肅ナルモノナリ曰ク何人ニテ  
 モ是等ノ至小ノ誠ト雖モ之ヲ破リ又他人ヲ教  
 ヘテ之ヲ破ラシムル者ハ天上ニ於テ小人ト稱  
 スルヘレ又古書ニ「セルボーム」ト云ヘル人ノ  
 兇惡ナリト記セルハ其イスレール人ヲシテ天  
 ノ誠ヲ破ラシメレ故ナリ又天怒リテ發シテ「バ  
 ビロン」ヲ罰セシハ其惡事ヲ以テ世人損ヒ壞  
 リシニ因ル其後「マリシ」ノ宗徒ヲ咒詛センハ

其徒一箇ノ人ヲシテ改宗セシメシメ海陸ヲ  
 周行シトトリ甚々ノ苦ヲ其ノ人改宗スルキハ之ヲ  
 レテ己ニ倍スル罪人トナラシムルカ為メナリ  
 人他人ノ品性ヲ損フ其方數種アリ  
 第一 心ノ抑制ヲ弱クスル事夫レ教法ハ人ノ  
 不善ヲ抑制スルノ最モ大イナルモノナリ故ニ  
 輕卒ニ教法ヲ談シ神ヲ汚シ日曜日ヲ犯シ經典  
 若クハ其談ヲ非譏シ或ハ人ニ父母ニ不孝ヲ勸  
 メテ信心ノ念ヲ減スルハ此罪ヲ犯スモノナリ  
 第二 人ヲシテ不良ノ情ヲ起サシムル事即チ

不良ノ書畫ヲ出版シ或ハ之ヲ賣リ或ハ不良ノ  
 事ヲ談シテ人ニ不良ノ思念ヲ懷カシムルハ此  
 罪ヲ犯スモノナリ人ヲ戲弄シテ其怒ヲ起シ毒  
 惡報復ノ念ヲ懷カシムルモ亦然リ其故ハ此ノ  
 如キ事ハ人ヲシテ兇惡不善ニ陷ラレムツヒノ  
 ナリハナリ  
 第三 人ノ不良ノ慾ヲ助ケル事即チ人ニ飲酒  
 ヲ教ヘ或ハ之ヲ飲酒ニ誘ヒ或ハ酒ヲ其眼前ニ  
 置ク者ハ此罪ヲ犯スナリ大都府ノ街上ニ於テ  
 ハ少年ノ慾ヲ飽カシメ終ニ放蕩無賴ニ至ルノ

習慣ヲ醸、テ其生計トスル者多シ奪一歎、ハ  
キノコナリ  
此ノ如キキハ言行書畫職業ノ別トク人ノ品性  
ヲ損フノ勢アレヒノハ總テ無罪ノモノニ非ラ  
ズ人常ニ之ヲ終ズ、勿レ  
法五章

評判論

前章品性ノ事ヲ論セリ人何様ノ品性ニテモ之  
ヲ為メ世間一般ノ説ヲ生スレハ自然ノ勢ナリ  
譬ハハ常ニ虚誕ヲ吐カリ、ハ其言、所必ラス

實事ノレヘトノ説ヲ生スヘク此ノ是眞實ノ  
評判ヲ得ルナリ若ク生正直ナレハ之ニ應  
テ世間ノ説ヲ生スルナリ正直ノ評判ヲ得ヘク此  
ノ事件皆然ラサルナレ  
ノ、聲價、甚々重々、キ所有ニレテ各人幸福  
ノ望ハ其評判ニ由ルニヒナリ若ク人虚誕偷益  
ノ評判ヲ得ルハ誰カ之ニ事ヲ任スル者ア  
故ニ他人ノ評判ヲ賤スル事ハ最モ大イナ  
不正ニシテ補フハカラサレノ害ナリ人他人  
穀價ヲ奪、ハ權ヲヤリ猶其金錢ヲ奪フノ權ナ

一カ如クニテ綴令其嚴價實ニ過ルト雖モ之  
 フ奪フノ權アルヘカラス譬ハ人アリ不正ノ  
 術ニテ錢ヲ得ルト雖モ國法ニテ之ヲ裁スレノ  
 權ヲ有リ者ニ非ラサレハ其錢ヲ奪ヒ若クハ同  
 等ノ方法ニテモ妨ヲ為スノ權ナキ如ク故ニ  
 綴令し人ノ評判其實ニ過ルト雖モ故ナクモテ  
 其評判ヲ減スルノ權ナキ  
 此事一村ヲ經典ニ記スル所ノ教ハ左ノ如ク曰  
 汝人ノ為メニ議ヒテレサラント欲セハ人ヲ  
 議スルカ、其故ハ汝何等ノ度ヲ以テ人ヲ度ル

凡人亦其度ヲ以テ汝ヲ度ルヘク汝何ヲ人ノ眼  
 中ノ小點ヲ見テ己ノ眼中ノ大瑕ヲ顧ミサル按  
 ノルニ人ノ小過ヲ知リテ己  
 ノ大過ヲ知ラサルヲ云フ  
 曰ノ總テ罵置忿怒喧嘩誹謗フレテ汝ノ傍ヲ去  
 ラシメヨ  
 曰ク何人ヲモ誹謗スル勿レ又曰ク互ニ相誹謗  
 スル勿レ  
 曰ク生ヲ愛ヒ幸福ヲ邀ヘント欲スル者ハ其舌  
 ヲシテ人ヲ誹謗セシムル勿レ  
 左ニ先ツ人ノ害トナル實事ヲ談スヘカラサル

ノ事件ヲ論レ次ニ之ヲ談スルモ妨ナキノ事件  
 ヲ論スヘシ但シ人ノ害トナル虚誕ハ此例ニ非  
 ラス此ノ如キモノハ實ニ虚言ノ罪アルノミナ  
 ラス加フルニ讒言ノ罪アルハナリ  
 第一 相當ノ緣由ナクシテ人ノ惡事ヲ顯ハス  
 ヘカラス新奇ノ喜ビ或ハ談話ヲ好ミ或ハ猜忌  
 或ハ惡意或ハ報復ノ為メニ他人ノ惡事ヲ談ス  
 ルハ相當ノ緣由ナクシテ之ヲ行フモノトス  
 第二 人ノ一ノ惡事ヲ行ヒシヲ以テ其品性總  
 テ此ノ如シト謂フヘカラス誰カ一事ニ依テ其

全行ヲ決セラル、ヲ顯フ者ノヲニヤ一ノ各語  
 ノ所行ヲ以テ其貪婪ノ證據トナシ難キ一猶一  
 慈悲ノ所行ヲ以テ其仁惠ノ證據トナシ難キ  
 ノ如シ故ニ一ノ短處アルヲ以テ全ク不徳ノ人  
 ノリト稱スルハ不正ノ甚クニキモノナリ  
 第三 無用ニ人ノ所作ヲ惡心ヨリ出テタリト  
 為スヘカラス無用云々ト言フ所以ハ人ノ所作  
 ニ於テ議論ヲ待タズシテ善心ヨリ出テタリト  
 為シ難キモノアレハナリ此ノ如キ所作ト雖モ  
 之ヲ述ハサハ得ルルハ只其事蹟ヲ述ヘ其

心ノ善惡ニ於テハ各人ヲシテ自ラ之ヲ決セシ  
ムルヲ宜トス  
右ノ規則ヲ推シテ考フレバ第一所作ノ無罪ノ  
者タラザ得ルヤ之ヲ鄙陋ノ心ヨリ出テタリト  
為スヘカラス第二善事ナリトスル所作ノ所作ヲ  
善心ヨリ出テタルニ非ラスト為スヘカラス此  
規則ノ道理ニ合ハルコトハ試ニ之ヲ己ノ事ニ施  
スヤハ分明ナリ人己ノ所作ヲ許セザルハ此  
ノ規則ヲ用フルヲ顧フ者アラシヤ  
第四 人ノ癖所ヲ擬似レ或ハ之ヲ嘲笑レ或ハ

之ニ縛號ヲ命スル等總ノ人ノレテ輕蔑ヲ受テ  
シムルノ事ヲ行フテ其敵價ヲ減スヘカノ人縱  
令害ヲ為人ノ意トレト言フ一節ニ辨解ノ辭ト  
ナシ難シ人此ノ如キ事ノ害ヲ為スヲ知ル之ヲ  
以テ罪アリトスルニ足ル經典ニ曰ク汝ノ言語  
ノ為メニ汝罪無シト稱セラレ汝ノ言語ノ為メ  
ニ汝罪アリト稱セラレレ而シテ人ハ談話ニ  
ル所ノ無用ノ言語ニ審斷ノ目ニ於テ一々其辨  
解ヲ為スヘカト少年長者共ニ此經典ノ語ヲ忘  
ルヘカトサレハルハ安リニ人ヲ誹謗セザルヘカ

ビヨツブ官僧ウイハクシ氏曰ノ人天ヲ汚レ或ハ

己ノ品性ヲ損シ或ハ隣人ノ害トナルヘキヲ

喜レテ聞クヘカラス又人ニ之ヲ説クヘカラス

ト

次ニ人ノ害トナル實事ヲ談スルニ妨ナキ事件

ヲ論、即チ左ノ如シ

第一 世ノ正道ヲ進メシカ為メニハ之ヲ談ス

ルニ妨ナシ人ノ社中ニ對シテ罪ヲ犯セハ知

リテ之ヲ匿クス者ハ犯人ノ黨ニハナリ此ノ

如シ之ヲ相當ノ官吏ニ告ケ罪人ヲシテ詮議

ヲ受ケ罰ヲ蒙ラシムヘシ

第二 無罪ノ人ヲ保護センカ為メニハ之ヲ談

スルニ妨ナシ縱令ハ甲アリ乙ノ來歴中ニ於テ

某ノ事アルヲ知り若シ丙ヲシテ其事ヲ知ラシ

ハレハ其大害ヲ受クルヲ免レシムヘキハ之

ヲ丙ニ告ケテ害ヲ避クルノ備ヲ為サンムヘレ

是其職務ナリ之ヲ行フニ其實事ナリト知ル所

ノ事ノミヲ語リテ上ニ記セル目的按スルニ無

護マシテ為メニスルヲ要ス

第三 犯人ノ益トナルキハ之ヲ談スルニ妨ナ



一人惡事ヲ行フラ父母若クハ保人ノ如キ制御  
 或ハ教諭ニ因テ其過ヲ改メレムヘキ人アレバ  
 其人<sup>ノ</sup>ヲ知ラスレテ過クルガハ其事ヲ報告ス  
 ルヲ以テ人ノ職務トス是雙方ニ對シテ好意ノ  
 最モ厚キモノニシテ此好意無キカ為メニ人ノ  
 子タル者ヲレテ一生ヲ誤ラシムルヲ甚タ多シ  
 朋友ノ道之ヲ報告スルヨリ厚キモノナク父母  
 ノ恩ニ感スルヲ其子ノ益トナルヘキヲノ報告  
 ヲ受クムヨリ大イナルハナシ  
 第四 人他人ノ惡事ヲ顯ハスノ自由無レト雖

凡犯人ニ對シテ恰モ無罪ノ人ノ如ク一事ヲ行  
 フノ任ナシ若シ天人ノ惡事ヲ知ラレメンバハ  
 人各己ノ為メ一此知識ヲ用フルノ自由アリテ  
 縱令之ヲ知ル者ハ己一人ノミナリト雖バ之ト  
 交ル<sup>ル</sup>ヲ避テ可ナリ唯可ナルノミノラス且之  
 ト交<sup>ル</sup>ルヲ避ケサルヘカラス

第六章

真實ヲ論ス

實事ヲ談セント欲スルノ志アリテ實事ヲ談ス  
 ル之ヲ真實ト云フ

實事ヲ談スルニ或ハ既往ノ事ニ關スルモノアリ或ハ現在ノ事ニ關スルモノアリ譬ハ昨日雨降リタリト確言シ或ハ今日雨降ルト確言スルカ如キ是ナリ或ハ未來ニ於テ為サレト欲スル事ニ關スルモノアリ譬ハ人ニ明日一トドルラシメ金ヲ與フヘレト約束スルカ如キ是ナリ脩身ノ道ニ於テ確言ノ罪アルト罪ナキトハ常ニ其志ニ因テ之ヲ決スルモノナリ若シ正直ニシテ實事ヲ談セシム欲スレハ縱令謬誤ナリト雖モ虚言ノ罪ナシ若シ欺詐ノ念ヨリ出ルルハ

縱令其言ノ所實事ナリモ虚言ノ罪アリ  
真實ヲ論スルニ分テ二条トス第一確言第二約  
束

第一条

確言

確言ニ於テ真實ノ定則ノ要スル所ハ何事ヲ確言スルモ己ノ心中ニ於テ思想スル所ノモノヲ毫厘モ差ハスレテ人ニ傳フルニ在リ即チ己ノ信スル如クニ事ヲ述フルヲ云フ  
此条ニ付テ經典ノ教ハ左ノ如シ

曰ク汝隣人ニ對シテ虚妄ヲ説クハ善クナ  
 曰ク虚言ヲ吐クノ唇ハ天ノ厭惡スル所ノモ  
 曰ク汝ノ舌ヲシテ惡事ヲ説セシムル勿レ汝ノ  
 唇ヲシテ詐偽ヲ説カシムル勿レ  
 曰ク虚言ヲ吐ク者ハ鬼ノ子ト名ヲケラル即チ  
 鬼ノ所作ヲ效フ者ノ義ナリ  
 曰ク總テ虚言者ハ火ト硫磺ニテ燃ユル湖水中  
 其仕處ヲ得ハレ  
 曰ク虚言ヲ吐ク者ハ決レテ天ニ上ラサルヘシ

天虚言ノ罪ヲ惡ハシテ知ラント欲ヒハ經典ニ  
 於テ虚言ヲ吐キレ者ノ天罰ヲ受ケル事ヲ記セ  
 ル条ヲ見ルヘレ  
 故ニ左ノ諸件ノ如キハ眞實ノ定則ノ禁スル所  
 第一 虚謬ヲリト知リテカラ之ヲ實事トレテ  
 話ス事或ハ何様ノ景況ニ於テモ他人ヲ欺カ  
 ト欲スルノ志ヲ以テ話ス事  
 第二 實事ナルト否トシ知ラスシテ之ヲ實事  
 ヲリト言フ事人實事ナリト知ラサル事ヲ實事

ナリトシテ談スルハ己ノ心ニ存スルトヲ人ニ  
傳フルモノニ非ラス是即チ虚誕ヲ吐クナリ然  
ルニ己實事ナラント思ヒテ以テ之ヲ實事ナ  
リトシテ談セリト言フハ無益ノ託辭ナリ若シ  
實事ナラント思ヒレノミナテハ己ノ實事ナリ  
ト思フコトヲ告ケテ己ノ心ニ及ヒル事ヲ人ニ  
傳ハサルヘシ

問フ然ラハ實事ナルコトヲ知ルニ非ラサレハ之  
ヲ談スヘカラスレテ己ノ意見ヲ吐クハ非ナリ  
ト答フ否之ヲ為スモ妨ナキト明クナリ但シ然

ルルハ之ヲ己ノ意見ナリトシテ語り實事ノリ  
トシテ談スヘカラス

第三 實事ヲ談スレバ他人ヲシテ之ヲ誤解  
レムヘキ方法若クハ景況ヲ以テ之ヲ語ル事  
其方數種アリ即チ左ノ如シ

其一 或ル景況ヲ説ク其實ニ過クル事  
其二 或ル景況ヲ説ク其實ニ及ハサル事  
其三 或ル景況ハ其實ニ過キ他ノ景況ハ其實  
ニ及ハサル事

其四 有ノ儘ニ實事ヲ述フルル其順序ノ方法

一因テ人ヲシテ之ヲ誤解セシムル事譬ヘハ甲  
アリ乙ノ室ニ入り其去リシ後乙直ニ時辰儀ヲ  
偷マレタルルヲ看出セリト言フキハ自然ニ人ヲ  
シテ時辰儀ヲ偷ミシ者ハ甲ナリト思ハシム綴  
令實事ヲ述ヘタルニ過キスト雖凡人ヲシテ之  
ヲ誤解セシメント欲スルノ志ニテ語ルキハ虚  
誕ノ罪ヲ免レス  
虚誕ノ罪ハ其志ヨリ人ヲ欺ムクニ在リ故ニ聲  
音眼色頭首ノ運動或ハ身體ノ形狀等ニテ其罪  
ヲ犯スル言語ヲ用フルト異リルトレ譬ヘハ

若シ旅人アリテポストニ赴クノ路ヲ問フキ  
之ニ他ノ路ヲ指シ示スキハ言語ニテ之ヲ欺ム  
クト同様ノ虚誕ナリ  
此定則ハ親疎尊卑ノ別ナク總テ人間ノ交際ニ  
用フヘキモノニレテ父母子ヲ欺ムクヘカラス  
子父母ノ欺ムクヘカラス師弟子ヲ欺ムクヘカ  
ラス弟子師ヲ欺ムクヘカラス老人少年ヲ欺ム  
クヘカラス少年互ニ相欺ムクヘカラス買主賣  
主ヲ欺ムクヘカラス賣主買主ヲ欺ムクヘカラス  
政事家己ノ黨ヲ欺ムクヘカラス亦其敵黨ヲ

其ハグヘカラス之ヲ概スレハ此任ハ普子カ人  
一及ホヌモヲニシテ親族他人ノ間ヲ論セス總  
テ之ヲ守ヲサルヘカラス  
假令聽者實事ヲ知ルヘキノ權ナシト雖凡之ヲ  
以テ虚誕ヲ吐クノ辨解トナシ難シ然ルハ之  
ニ對シテ其事ヲ説カサルハ其理アレモ虚誕ヲ  
吐テ之ヲ欺ムノ理ノシ譬ヘハ人我ヨリ取ル  
ヘキノ理ヲキルハ其需ニ應シテ之ヲ與ヘサル  
ハ其理アレバ之ヲ騙シテ其所有ヲ奪フノ理カ  
キカ如シ

眞實ヲ守ラント勉ムルノ大事ナルコトハ實ニ之  
ヲ算スヘカラス戯レニ虚言ヲ吐キ若クハ事ヲ  
談スル其實ニ過ルヲ樂トシ或ハ之ニ因テ人心  
ヲ感動セシメントスルノ惡事タルハ之カ為メ  
ナリ戯レニ虚言ヲ吐ク者ハ久レカラスレテ實  
ニ虚言ヲ吐クニ至リ終ニハ常慣ノ虚言者トナ  
ルヘシ故ニ人各小事ニ於テモ眞實ヲ守リ毫厘  
モ之ニ差フコト勿レ人已ニ克チ或ハ他人ノ所作  
ヲ制抑スルノカヲ得ルコト眞實ノ徳ヲ修ムルニ  
如クモノナカルヘシ

實ニ此ノ如キキハ人ニ虚言ヲ吐クテテ教フル  
ハ大惡事タラサルヲ得ス父母及ヒ乳母ノ一時  
教戒ヲ加ヘンカ為メニ權リニ虚説ノ語ヲ以テ  
小兒ヲ嚇シ又客ノ来リシキ家ニ在リト雖此之  
ニ違フノ煩勞ヲ避ケン為キ其兒女若クハ婢僕  
ニ命シテ家ニ在ラスト言ハシムルハ是テ商  
人營店ニ命シテ他ノ價ニテ買ヒレ物ヲ其ノ價  
ニテ買ヒタリト客ニ告ケンムバモ亦然リ此ノ  
如クシテ己ニ委託セシ人ヲ損ヒ壞ル者ハ何  
以テ天ニ答フルヲ得レヤ且ク故意之ニ虚言ヲ

吐クノ教ヘシ人ノ何ヲ以テ己ニ實ノ告クル  
ヲ期望スルヲ得ンヤ

第二條

約束 契約

第一 約束ヲ論ス

約束トハ己ノ志ノ人ニ告ケ好ンテ人ヲシテ期  
望ノ念ヲ生セシムルモノナリ  
真實ノ定則ニ從ハハ此志ヲ語ルニ己ノ心ニ思  
フ所ノコト少シモ差フヘカラス人實ニ志アリ  
テ之ヲ語ハアリ或ハ之ヲ語レバ實ハ之ヲ行フ

志ナキアリ此事ニ於テモ人ハ虚言ヲ吐クノ  
自由ナキト他ノ諸事ニ異ナルトナシ  
此志ヲ語り人ヲシテ期望ノ念ヲ生セシメシト  
ハ其言ヲ差ヘズ之ヲ行フノ任ヲ負フモノナリ  
即チ已ヨリ好デ生セシメタル期望ニ應シテ之  
ヲ行フヲ其職務トス  
故ニ約束ハ約束ヲ為ス者ノ目的トスル所ニ從  
テ其用ヲ為スモノニ非ラス其故ハ目的トスル  
所言フ所ト齟齬スルトアレハナリ亦約束ノ受  
トル者ノ心ニ了解スル如ク其用ヲ為スモノニ

非ラス若シ然ルハ人ノ甚タレキ期望ヲ起ス  
ト際限ナカルヘシ畢竟約束ヲ守ルノ任ハ已好  
シテ期望ヲ生セシメレニ因ル故ニ已ノ生マレ  
メタル期望ヲ達セシムルヲ其職務トス  
是ヲ以テ約束ニ於テモ確言ニ於ル如ク所作形  
狀顔色ヲ以テ之ヲ行フト恰モ言語ヲ用フルト  
等シキモノナリ譬ヘハ雜賣ニ於テ點頭ハルヲ  
價ヲ出スノ符號トスルハ點頭スル者ハ言語  
ヲ以テ價ヲ出スヘト約スルニ同ニ總テ他ノ  
方法若クハ所作ニ因テ人ノ期望ヲ起スモノモ



亦然リ

然レル約束其用ヲ為サ、ルノ時アリ茲ニ其一  
ニヲ載スルヲ適當トス

其一 約束ヲ遂クルヲ能ハサル時若シ其事中  
途ヨリ變；テ實ニ己ノカラノ及ハサルニ至レ  
ハ之ヲ行フノ任ナシ然レル預メ行ヒ難キヲ知  
テ約束ヲ為スルハ虚言詭騙ノ罪ヲ犯スモノニ  
レテ人ノ失望ヲ償ハサルヘカラス

其二 約束ヲ遂クルノ法ニ背ク時人為スヘカ  
ラサル事ヲ行フノ任ナシ然レル約束セサル以

前ニ其法ニ背クノ知リ若クハ知ルヲ得

事ニシテ對手ノ之ヲ知ラサリニキハ之ヲ欺

クノ罪アリテ其失望ヲ償フヤトヘカラス若シ

對手モ亦其事ノ法ニ背ケルヲ知リンキハ之ヲ

償フノ任ナシ譬ヘハ入ト共ニ盜賊ヲ行ハト

約束スルハ其ハ之ヲ破ラサルヘカラス然レトキ

盜賊ヲ行フヲ獲ヘキ所ノ物ヲ償フノ任ナキ

必定ナリ

其三 自ラ好ミテ人ノ期望ヲ起スニ非ラヤ

ハ約束其用ヲ為サス例セバ此ニ甲アリテ其乙

二語テ曰ク我丙ニ吾馬ヲ與フハト然トモ  
乙ヲシテ之ヲ丙ニ傳ヘシメント欲スルノ意ナ  
キヤ乙甲ニ告リスレテ之ヲ丙ニ傳フレハ甲約  
束ヲ遂クハフ任ナシ若シ甲乙ヲシテ之ヲ丙ニ  
傳ハシムルキハ自ラ之ヲ告リシト同様ノ任ナ  
シ  
其四 終東ノ由ラ遠リタノ事情ノ後ニ虚誕ナ  
ト知ルハ其ハ約束其用ヲ為サズ譬ハハ乞兒  
ノ語ヲ信シテ之ニ錢一與ハント約ニ後ニ其語  
ノ虚誕ナリト知ルハ其ハ家初ノ約束ヲ守ルノ

任ナレ

右ニ載スル所ハ用ヲ為サハル約束ノ殊ニ緊要  
ナルモノナリ時トシテ約束ヲ遂クルカ為メニ  
不便ノ起ルヲアレヒ之ヲ以テ其任ヲ免レス同  
人ニテモ自ラ好シテ為スニ非ラリハ約束人  
ルヲ要セス然レモ一度約束セシキハ脩身ノ道  
ニ於テ之ヲ免ルスニ非ラサレハ約束ヲ遂クル  
マナハ其任ヲ負フモノナリ是ヲ以テ人約束  
為スニ謹慎ヲ尽クレ熟考スルヲ待タズレテ勿  
卒ニ之ヲ為スヘカラス試シニ看ヨ容易ニ約束

ヲ為サ、ルノ人ハ必ズ之ヲ遂ケルニ於テ最モ  
謹慎ナルノ人ナリ

第二 契約ヲ論ス

雙方相互ニ約束スル之ヲ契約ト云フ即チ一方  
於テ某ノ事ヲ為スヘキ約束ニテ一方ニテモ  
亦其代ニ某ノ事ヲ行フヘキト約束スルモノナ  
リ  
契約ニ迷フルノ規則ト之ヲ守ルヘキノ道理ト  
其用ヲ為シ、ルノ時トハ約束ニ於ルカ如レ只  
契約ニ於テハ約束ニテキ所、一種ノ簡條ニシ

ノ之カ為メ雙方ノ任ニ定限アルヲ以テ約束ト  
異ナリトス

契約ヲ結ビタル後一方ニテ其職分ヲ守ル間ハ  
一方ニ於テモ亦其職分ヲ守ルノ任アリ然レモ  
熟レノ方ニテモ之ヲ破ルキ、約條ニ必要ナル  
簡條ノ缺ルヲ以テ對手之ヲ守ルノ任ナレ加之  
對手之カ為メニ損込ヲ受クル事ハ職分ヲ破リ  
タル者之ヲ償フノ任ヲ負フヲ常トス  
通常ノ規則ハ此ノ如レト雖モ別ニ注意スヘキ  
規則外ノ事アリ即チ造物者ノ定メタル契約是

ナリ譬へハ婚姻ノ契約人間交際ノ契約ノ如シ  
此ノ如キ事ニ於テハ孰レノ方ニテモ對手ノ職  
分ヲ守ラサルコトアレハ必ス其任ヲ免ルハモノ  
ニ非ラス只天ノ定メタル原因ニ由テ之ヲ免ル  
コトアルノミ

眞實ヲ守ルノ任ハ各箇ノ人互ニ約ヲ結フニ於  
テモ社中ト社中トノ約ヲ結フニ於テモ異ナル  
所ニシ社中其約束ヲ守ルノ任アルコト各箇ノ人  
ノ如ク文明ノ人民野蠻ノ人民ト盟約ヲ結ヒタ  
ルハ之ヲ破ルヘカラサルコト文明ノ人民ト盟約

ノ約ハタルカ如ク又各箇ノ人互ニ約係ノ約ニ  
タルニ同シ之ニ反スル行ヲ為スルハ何等ノ口  
實アリテ之ヲ飾リ羊クハ何様ノ威力ヲ以テ之  
ヲ支持スルハ其鄙劣ニシテ賤ムヘキコト其恥ヲ  
知ラズンテ且ト暴惡ナルカ如シ

市川清流 校

修身論後編卷一終

仙

行

